

HUD部品生産強化 新工場施工は植木組

日本精機

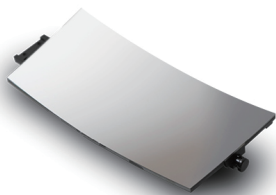
日本精機（佐藤浩一社長、長岡市東蔵王2-2-34）は、ヘッドアップディスプレイ（HUD）

の基幹部品「凹面鏡」の生産増強に向け、既存工場をリノベーションした。9月ごろからの出荷開始を目指す。施工は植木組、設計・監理を細員建築事務所が担った。設備を含む改修総投資額は約24億円。



の基幹部品「凹面鏡」の生産増強に向け、既存工場をリノベーションした。9月ごろからの出荷開始を目指す。施工は植木組、設計・監理を細員建築事務所が担った。設備を含む改修総投資額は約24億円。

④凹面鏡を一貫生産する新工場⑤凹面鏡



ミラーは緩やかな凹状になっており、HUDの中でも高度な加工技術が必要なパーツとされる。クリーンルームで凹面を成形しミラーの膜を施す。成形レーンでは自動化し無人でも48時間成形できる体制とした。

HUDの大きさは自動

車メーカーや車種によって異なり、振動や車内温度の変化など過酷な状況に耐えうることはもちろん、ドライバーの身長などへの対応も求められる。同社が扱う凹面鏡は100種類以上にのぼるといふ。

三次工場、長岡の高見工場に続く国内3拠点目。蔵王と高見で作られた凹面鏡は主にイギリス・ポーランドに出荷され、蔵王・高見を合わせて現在の1.7倍の生産能力となる。

同社HUDシェアは約3割を占め、世界トップ。高い市場成長が見込まれるとし、「新中長期経営計画2026」では約150〜200億円を投入。30年にHUD売り上げ1000億円の目標を掲げる。来年には三次工場の増設も予定。増産体制を強化し、さらなる収益拡大につなげたい考えだ。